

飛行機に乗って、島から島へ出勤中

奄美群島で活躍中の島のお医者さんに、4回にわたってお話を伺います。

連載コラム 島のお医者さん

～ハブとの奮闘記～

こんにちは、奄美群島で『島のお医者さん』として働いてますDr.ヒラッシーこと平島修と申します。島のお医者さんの、楽しさ、奮闘、そして飛行機を含めた移動手段と医療の関わりなど、医療と生活を身近に感じていただけるメッセージをお届けします。

私は福岡で生まれ、福岡・大阪の病院で研修を積んで奄美大島に赴任しました。美しい自然が残る奄美大島には特有の動植物がたくさん存在します。そして同時に島特有の風土病もあります。私が島に赴任して最初に勉強したのが風土病の1つ『ハブ咬傷(こうしょう)』です。奄美大島・徳之島・沖縄地方に生息する猛毒を持つ蛇で、咬まれてその毒が全身に回ると命に危険があると言われています。ハブのいない本土で育った私は、ハブが毒蛇であることも知りませんでした。「へびに咬まれて人が死ぬ」なんか思ったこともなかったもので、教育ビデオを見て驚き仰天、一気に他人事では済まされない気持ちになりました。ある日の夕暮れ時に夕日を見ようと車を走らせていると、道の真ん中に何やら紐のようなものがニョロニョロ、まさかと思い車を降りて見てみると、なんとハブ発見!本当に普通に道路にもいるんだ、と実感しました。



(イラスト 平島先生)

その日は突然やってきました。救急隊より「草むらでハブに咬まれた20代男性です。受け入れをお願いします。」イメージトレーニングをどれほどしていても初めて遭遇する疾患を診る時には緊張します。「せ、先生助けて。僕死ぬんですか。」という患者さんの声が一気に私の鼓動を早め、緊迫する救急外來で自分に落ち着けと言いつつ聞きながら毒を絞り出し、ハブ血清を投与しました。指先にわずかに咬まれただけでしたが、翌日には片腕全体が腫れ上がりました。しかし毒は幸い腕に留まり、数日間の入院で治癒し退院となりました。

ハブ咬傷に限らず風土病はたくさんあります。昔と違い様々な媒体から情報を収集できますが、住民の方々の昔ながらの知恵が参考になることもよくあります。私はハブ咬傷をはじめとした風土病を経験する度にまた1つこの地域に溶け込んだ気持ちになるのです。

島のお医者さん 平島 修

(徳洲会奄美ブロック総合診療研修センター医師)

11年前に初めて奄美の医療・人の温かさに触れ、奄美群島での医療に取り組む決意をする。奄美大島・加計呂麻島・喜界島で診療をしつつ、全国の医学生・医師に「手あて」の重要性を伝える活動を行っている。



～表紙クイズの答え～



正解は…

この飛行機はATRという飛行機で、後ろ側のドアから機内へご案内します。

～ATRの内装のご紹介～

就航は2017年春の予定でございます。一足先に、機内をご紹介します!



客室はイタリアの有名な工業デザイナー、ジウジアーロ氏がデザインし、イタリア語でハーモニー(=調和)を意味するARMONIA(アルモニア)と名付けられています。「上質な移動空間」をテーマに、本革仕様のシートと機内照明にLEDを使用しています。

また、客室内のプロペラの振動と騒音を抑制するために強化されたフレームと、振動抑制部材を使用したことにより、機内騒音レベルがより改善されています。

手荷物収納棚は間口が広くなり、荷物の出し入れがしやすくなります。



ますます便利になるね!



どうぞ、ご自由にお持ち帰りください。

Vol.2

JAC NOW

～ゆいタイム～



クイズ: この飛行機は、どこから乗るの?

(こたえは裏面へ。)

お手にとってください、ありがとうございます。

JACの今をお届けしようと、社員手作りの機内情報誌を作成し、今回第2回目の発行となりました。お客さまとつながる ゆい“結い”の時間を、そして、地域航空として各地域を“結ぶ”情報をお届けしたいという想いを込め、ゆいタイムと名付けております。ふたつとない今日のこの空の上でのお客さまとの出逢い。ゆい“唯”タイムを、『JACNOW ～ゆいタイム～』を通じて、優しく心つながる時間として、お過ごしいただけましたら幸いです。

ご意見、ご感想、お気づきの点などございましたら、どうぞお気軽に客室乗務員までお寄せください。

また、バックナンバー(vol.1)をご覧になりたい方も、どうぞお気軽に客室乗務員までお声掛けください。



みなさまへ

本日も日本エアコミューター(JAC)にご搭乗くださいませ誠にありがとうございます。

JACは1月に待望の新鋭機であるATR42-600(以下ATR)を受領し、春から就航する予定です。みなさまにこのATRの魅力を一足先にお知らせします。

ATRは世界で1,500機以上売れているベストセラー機で、多くの航空会社が成長戦略を担う機材として地域路線ネットワークで使用しております。

近距離路線用に設計された高効率なプロップジェットエンジンを搭載し、優れた燃費効率と最適な速度を実現しております。同時に最高水準の環境性能を有しており、エネルギー消費やCO2排出量も大幅に削減し、騒音レベルも低く騒音規制の厳しい空港でも問題なく離着陸することができます。まさしく最先端のテクノロジーを備えたエコ機材なのです。

ATRのもう一つの売りが快適性で、幅広い客室に本革の座席を備え、機内手荷物収納棚にも、十分なスペースがあります。また、LEDにより機内は明るく、従来型のプロップ機材に比べ静かな客室となっております。

JACはこの新しいATRで、みなさまにより良いサービスの提供を図ってまいります。これからもJACをよろしく願います。



ATR操縦席より

日本エアコミューター株式会社 代表取締役社長 加藤 洋樹

沖永良部島の地下宮殿～鍾乳洞



写真提供:一般社団法人沖永良部島ケイビング協会

本日のご搭乗ありがとうございます。ただいま注目を集めている沖永良部島の鍾乳洞をご紹介します。サンゴ礁にかこまれた南の島、沖永良部島の地底には驚きの空間が広がっています。普段着のまま楽しめる「昇龍洞(しょうりゅうどう)」、ヘルメット・ヘッドランプやつなぎを身につけ、地下水をかき分けながらガイドの案内で探検する「銀水洞(ぎんすいどう)」「水連洞(すいれんどう)」……何千年・何万年をかけて造り出された、白く輝く石柱、カーテンのようにゆるやかにびく鍾乳石など、息をのむ美しさです。洞内の気温や水温は年間通じてほぼ20℃で、真冬でも楽しめます。

海も山も魅力の沖永良部島へどうぞお越しください。



就航地域リエゾン室 兼 沖永良部空港所 杉原 直之

